ジャンルに基づく学術論文の指導

大野真澄

はじめに

多くの学生にとって，学術論文（research article）を英語で書くことは大きな挑戦です。当該分野におけるライティングの慣習を踏まえたうえで，論文の査読者をはじめとする読み手に研究成果を明確に伝えることは容易ではありません。したがって，学生が学術論文の書き方を効果的に学ぶためには，教員による明示的な指導が重要な役割を担います。学術論文の指導では，その研究内容と論文の書き方の両方の側面が重要です。本章では後者である学術論文の書き方の指導に焦点をあて，「ジャンル」という概念に基づいて指導する（genre-based teaching）方法を紹介します。

ジャンルという言葉は，日常生活では一般的に映画・文学・音楽などの類型を表す際に用いられます。しかし，ライティング教育や研究では，ジャンルという言葉は異なる意味合いで使われます。たとえば，学術論文は1つのジャンルと捉えられます。書き手が学術論文に見られる特有の文章構造やレトリック（rhetoric）を学び，その知識を活かして学術論文を書いていく過程において，教員による明示的な指導と書き手の主体性を育む支援が重要となります。そのような指導を実現させ，書き手の文章作成力を効果的に伸ばす方法として，ジャンルに基づく文章指導を取り上げます。

本章では，まずジャンルという言葉の概念と定義を概観し，ジャンル分析と呼ばれる手法を詳述します。この手法は元々は研究手法として開発されましたが，文章指導の際に補助ツールとして活用することができます。次に，学術論文の書き方を指導する際に有効となるジャンルに基づく論文指導の実践例を紹介します。習熟度の異なる学習者を想定し，主に理工系分野における学術論文の「序論」の指導例を扱って，教室での文章指導の方法とそのポイントを解説します。

1. ジャンルの概念

1.1 ジャンルの定義

ジャンルの概念はライティングやスピーキングといったコミュニケーションと深く結びついており，ジャンルは社会的行為（genre as social action）であると認識されています (Miller, 1984)。つまり，ジャンルは単なる類型を表す用語ではなく，社会的文脈に根ざしたコミュニケーション行為と関連づけて捉えられます。ジャンル研究の創始者の一人であるJohn M. Swalesは，「ジャンルはコミュニケーション活動の種類を表し，そのコミュニケーションの目的はディスコース・コミュニティー（discourse community）における構成員間で共有される」(Swales, 1990, p. 58) と定義しています。Swalesの定義において重要な点は，個々のジャンルには異なるコミュニケーションの目的があると提言した点，さらにその目的がディスコース・コミュニティーによって共有されることでコミュニケーションが成立することを示している点です。つまり，全てのコミュニケーションに目的があり，特定のコンテクストに関わる人々によってコミュニケーションが成立することを意味しています。

また，ジャンルの概念には，コミュニケーションの目的を共有する以外に，コミュニケーションの内容，構成，形式，読み手（聞き手），手段といった様々な要素が含まれています (Bhatia, 1993)。個々のジャンルにはコミュニケーションの目的と特有の談話的（discourse）特徴があり，それらの特徴を把握することによって効果的で円滑なコミュニケーションを図ることが可能となります。

Swalesに代表されるジャンル研究者たちはEnglish for Specific Purposes (ESP) に主眼を置き，ジャンルごとの言語特性を明らかにすることによってESP理論と実践を発展させてきました。また，ジャンル研究者たちは，様々な言語やジャンルを対象とした談話的・形式的・構造的特徴を解明するだけでなく，ジャンルを取り巻く社会文化的コンテクストにも目を向けて，多様な視点からジャンル研究を行っています (ジャンル研究の概要はTardy, 2009参照)。

1.2 学術的ジャンル

大学などの教育的コンテクストにおいて，学術的目的で行われるコミュニケーションは学術的ジャンル（academic genre）と呼ばれています。学術的ジャンルには話し言葉（spoken）と書き言葉（written）の両方が含まれます。話し言葉によるジャンルの例には，講義，学術会議における口頭発表，修士論文や博士論文

の口頭試問などがあります。一方，書き言葉によるジャンルには，書評，レポート，実験報告書，研究計画書，卒業論文，修士論文，博士論文，学術論文などがあります。これら1つ1つが個々のジャンルであり，そのコミュニケーションの目的，構成，形式，読み手は異なります。中谷 (2016, p. 105) によると，学術論文は以下の3種類に分けられます。

（a）実証的研究論文／原著論文（empirical research paper）

… 新しい課題を提示し，実験や調査で検証する

（b）レビュー論文（review paper）

… 当該分野における先行研究を概観し，課題を提示する

（c）理論構築，方法論の論文（theoretical, methodological paper）

… 先行研究を概観し，理論の再構築や研究方法の改善等を提示する

本章では上記の3種類を包括して「学術論文」または「論文」と呼び，最も多数を占める（a）に焦点をあてて，その特徴と指導方法を解説します。

2. ジャンル分析

ジャンル分析（genre analysis）はテクスト分析の手法の1つであり，ジャンル特有の構成や表現技法（レトリック）を分析するために用いられます。Swales (1990) は理系分野における学術論文の序論（introduction）の構造特性を明らかにし，“Create a Research Space”（CARS）モデルを提唱しました。CARSモデルは，ムーブ（move）とステップ（step）と呼ばれる談話的・修辞的ユニットで構成され，複数のムーブとステップの組み合わせによって「研究のスペースを作り出す」という序論の目的が遂行されています。

図1はCARSモデル（Swales, 1990）を示しています。序論では研究領域を確立する（ムーブ1: Establishing a territory）ために，どのような分野の研究であるかを示します。そして，研究のニッチ（隙間）を確立します（ムーブ2: Establishing a niche）。その後，ニッチを履行する（ムーブ3: Occupying the niche）にあたり自分自身の研究内容を説明します。ムーブ1，ムーブ2，ムーブ3は必ずしもこの順番で直線的に用いられるのではなく，各ムーブが数回ずつ繰り返されることもあります。CARSモデルは序論の基本構造を示していますが，実際の学術論文ではより複雑で変化に富む構造も存在します。Swales (2004) は後に，自身の初期のCARSモデルを改変し，様々な研究領域における学術論文の序論の構造を反映させた改訂版CARSモデルを提唱しています（図2）。

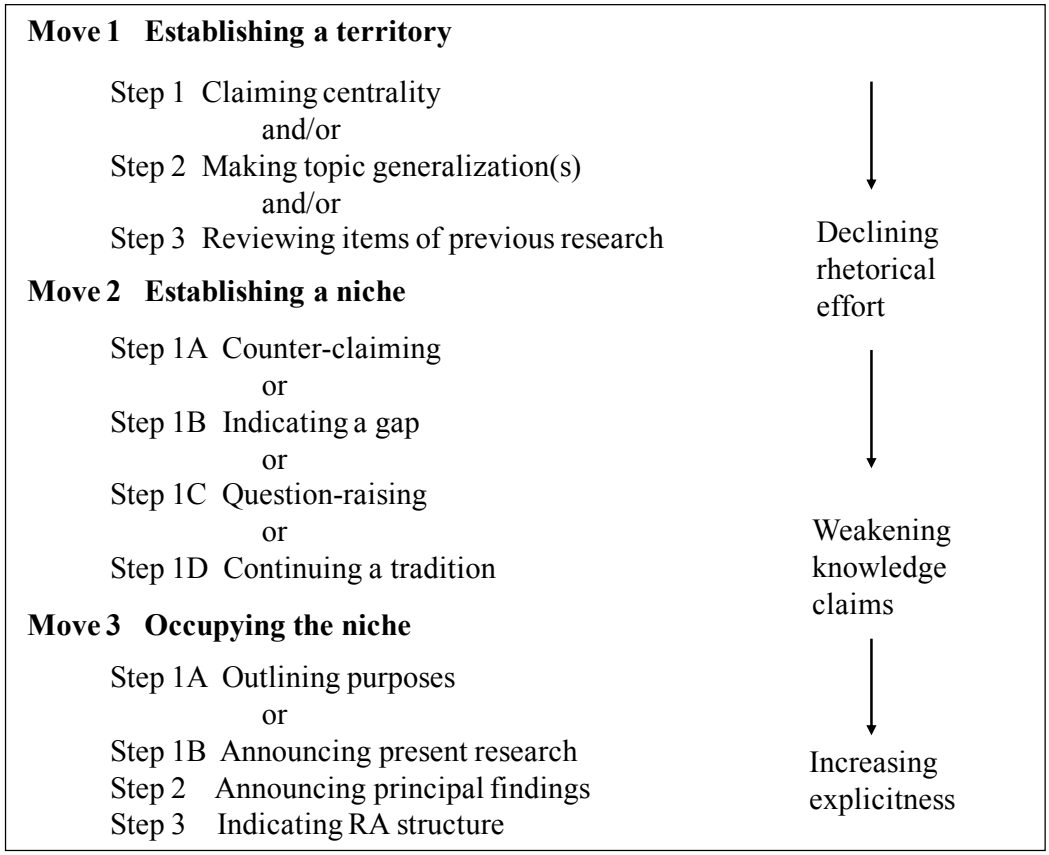

図1 CARSモデル (Swales, 1990, p. 141)

CARSモデルは汎用性の高いモデルとして様々な分野の学術論文のジャンル分析に応用され，学術論文の序論以外のセクションを対象とした実証研究も行われてきました (方法: Bloor, 1999; 結果: Brett, 1993; 考察: Holmes, 1997)。近年では人文社会科学分野における学術論文を対象としたジャンル研究も増えています (応用言語学，水本・浜谷・今尾，2016; 応用言語学，教育工学，Pho, 2013)。また，日本においても学術論文に限らず博士論文などの学術的ジャンルを対象としたジャンル研究も行われています (Ono, 2012, in press)。しかし，日本人の書き手を対象としたジャンル研究は依然として少ない傾向にあります (Kawase, 2015)。

Move 1 Establishing a territory (citations required)
via
Topic generalisations of increasing specificity

Move 2 Establishing a niche (citations possible)
via
Step 1A Indicating a gap
or
Step 1B Adding to what is known
Step 2 (optional) Presenting positive justification

(Possible recycling of increasingly specific topics)

Move 3 Presenting the present work (citations possible)
via
Step 1 (obligatory) Announcing present research descriptively and/or purposively
Step 2* (optional) Presenting RQs or hypotheses
Step 3* (optional) Definitional clarifications
Step 4* (optional) Summarising methods
Step 5 (PISF**) Announcing principal outcomes
Step 6 (PISF) Stating the value of the present research
Step 7 (PISF) Outlining the structure of the paper

* Step 2-4 are not only optional but less fixed in their order of occurrence than the others.
** PISF: Probable in some fields, but unlikely in others

図2 改訂版CARSモデル (Swales, 2004, p. 230, p. 232)

ムーブ 1 研究領域の確立 (引用を要する)
トピックの背景情報を徐々に詳述する

ムーブ 2 ニッチの確立 (引用の使用可)
ステップ 1A 欠落を指摘する
または
ステップ 1B 既存の知識に追加する
ステップ 2 (任意) 肯定的に正当化する

（徐々に詳細なトピックを扱って繰り返し可）

ムーブ 3 本研究の紹介 (引用の使用可)
ステップ 1 (必須) 本研究を描写する，又は，目的を説明する
ステップ 2* (任意) リサーチ・クエスチョンや仮説を述べる
ステップ 3* (任意) 定義を述べる
ステップ 4* (任意) 方法を要約する
ステップ 5** 主な成果を述べる
ステップ 6** 本研究の価値を示す
ステップ 7** 論文構成を概観する

* ステップ2-4は任意，他のステップよりも用いられる順番がより柔軟である
** 特定の分野には用いられるが，他の分野では用いられない

図3 改訂版CARSモデル (Swales, 2004, p. 230, p. 232; 拙訳)

3. ジャンルに基づく文章指導

ジャンルに基づく文章指導では，まず対象となるジャンルの特徴を書き手が認識することから始まります。具体的には，対象となるジャンルの目的，構成，言語特性，読み手といった事柄を書き手が理解することが重要です。とりわけ，学習者にとって馴染みのないジャンルの文章を指導する際には，文章を書く前の段階で前述の事柄を確認することが不可欠です。ジャンルに基づく文章指導では，書き手がコミュニケーションの目的を考え，ジャンル分析を用いて文章構造や言語特性を理解し，読み手を意識して（reader-centerd）文章を書く姿勢を身につけられるよう支援します。つまり，ジャンル分析を文章作成過程に取り入れ，文章指導の補助ツールとして活用します。

文章指導にジャンル分析を取り入れる目的は以下の2点です。1点目は，対象ジャンルが有する目的，構成要素，表現技法を学生が明確に理解できるようにすることです。2点目は，同一ジャンルであっても，研究分野によって言語特性や慣習が異なることを理解できるようにすることです。人文科学，社会科学，自然科学の各領域さらに各研究分野において言語特性や慣習は異なるため，指導者と学習者が対象となる研究分野における文章の特徴と慣習を把握することが重要です。

ジャンルに関する知識（genre knowledge）は，母語でのライティングだけでなく，第二言語でのライティングにおいても重要な役割を担います (Tardy, 2009)。実際に海外では，ライティングの授業やライティング・センターでジャンルに基づく文章指導が普及しており，ライティング教育におけるジャンルという概念の重要性やジャンル分析の教育的価値が認知されています。

従来の文章指導では，何をどのように書くべきか（What & How）を教員が一方的に教える傾向にありました。しかし，そのような指導は学習者の受動的な姿勢を助長しかねません。文章指導では，何をどのように書くべきかという点に加え，なぜそのように書くべきか（Why）を書き手に主体的に考えさせることが大切です。そうすることによって，どのようなジャンルの文章を書く場合にも既習の知識や技能を応用できるようになります。日本におけるライティング教育にもジャンルに基づく文章指導を取り入れ，主体的に学ぶ書き手を育てていきましょう。次節ではジャンルに基づく論文指導の実践例を紹介します。

4. ジャンルに基づく指導実践

4.1 授業での学術論文の指導例

本節では，学術論文を初めて書く学生に対して，ジャンルに基づく文章指導を教室で一斉指導として行う場合の例を紹介します。次のような指導の流れを踏まえ，学術論文の序論の指導を例にして，具体的に指導時のポイントを解説します。

（1）学術論文の特徴と慣習を学ぶ
（2）学術論文を書くための心得を学ぶ
（3）学術論文の全体構造を確認する
（4）各セクションの構成を確認する
（5）学術論文の初稿を執筆する
（6）振り返り，フィードバック，書き直しを行う

（1）「学術論文の特徴と慣習を学ぶ」段階では，学術論文におけるコミュニケーションの目的，読み手，内容，言語的特徴を確認します。学生の多くはこれまでに学術論文を読んだ経験が少ないため，学術論文がどのような特徴を持っているのかを明確に理解できていない場合があります。そこで，「学術論文とは何か」を尋ね，学生の認識を確認しましょう。そして，学術論文とは学術的な研究成果を発表するための文章であるということを伝えます。その際に，小論文やレポートとの違いを説明するとより理解が深まるでしょう。学術論文の特徴の1つに，先行研究を踏まえたうえで新しい発見や知見を公に文章で発表するという点があります。多くの場合には学術雑誌に掲載され，「研究者同士のコミュニケーションの手段」(佐渡島・吉野, 2008, p. 116) となります。学術論文の読み手は「同じ分野の研究者，あるいはその研究分野に関心を持って研究分野を広げようとしている研究者」です。読み手を常に意識して文章を書くことの重要性を強調しましょう。学術論文で用いられる言語の特徴としては「研究内容を的確に伝えることのできる専門性の高い学術的な言語」である点に言及しましょう (詳細は，野口・深山・岡本, 2007, p. 11参照)。

（2）「学術論文を書くための心得を学ぶ」段階で，引用の仕方，剽窃の問題，学術論文の執筆規定を説明しましょう。引用をする理由や引用の規則を学生が理解できているかどうかを確認する必要があります。学生の中には，剽窃をしてはいけないと分かっていても，文献からの情報をどのように引用すればよいのか理解が曖昧な場合や適切な文献の選び方を知らない場合もあります。また，論文構

成や参考文献の書き方などの執筆規定については，投稿先の規定を確認して，その規定に基づいて書く必要があることを伝えましょう。

（3）「学術論文の全体構造を確認する」段階では，当該分野の学術論文がどのような構造になっているのかを確認させましょう。学問分野によって学術論文の全体構造は異なるため，当該分野で主流となる文章構造を理解することは重要です。たとえば，理工系分野の論文では，IMRD（Introduction-Methods-Results-Discussion; 序論-方法-結果-考察）の構成が一般的です。一方，人文科学領域の論文では，IntroductionとConclusionの間のセクションが全て個々のトピックに基づく（topic-based）セクション構成になることがよくあります。また，同じ研究分野であっても，投稿先の学術雑誌によって論文構成が異なることもあります。したがって，実際の論文を見て，当該分野において主流となる学術論文の全体構造を把握させる必要があります。そのうえで，学問分野間・分野内の類似点と相違点を理解するよう促しましょう。たとえば，以下のような指導と活動を取り入れるとよいでしょう。

【指導例（初級）】

教員がモデルとなる学術論文を1本選び，全体構造を学生に確認させましょう。以下は，学生に対する指示例です。

1）モデル論文の全体構造にはどのような特徴があるかを確認しましょう。各セクション名を書き出し，各セクションの役割（目的）を考えましょう。

2）終わったら，近くの人と答えあわせをしましょう。

【指導例（中級）】

各学生に自分の分野の学術論文を複数持参させ，全体構造を確認させましょう。以下は，学生に対する指示例です。

1）自分の専門分野の学術雑誌に掲載されている論文の全体構造はどのようになっていますか。複数の学術論文を見て，各セクション名とその役割（目的）を確認しましょう。

2）ペア（またはグループ）になって，互いの分野における論文構造の類似点と相違点を話し合いましょう。

（4）「各セクションの構成を確認する」段階では，モデル論文を使ってジャンル分析を行わせるとよいでしょう。そして，ジャンル分析の結果を学生同士で

話しあう活動を取り入れてみましょう。まず，以下のように，学術論文の序論の目的や構造を簡潔に説明します。

序論は論文本体の導入部分にあたり，読み手に自分の研究に興味を持たせるための重要なセクションです。序論では自分の研究の価値を読み手に伝えるために，自分の研究の重要性や必要性を説明します。序論の構成については，第2節で示したとおり，CARSモデルまたは改訂版CARSモデルを用いて説明することで各構成要素とその流れが理解しやすくなります。CARSモデルを提示する時には，和文表記のモデルを提示してもよいでしょう。そのうえで，実際にCARSモデルを使って，以下の例のようにジャンル分析を取り入れてみましょう。

【指導例】

教員が選んだモデル論文（全体構造の確認時に使用した論文）をもとに，学生に序論のジャンル分析をさせ，序論の特徴を確認させましょう。その後，クラス全体でジャンル分析の結果や疑問点などを共有します。以下が指示例です。

1）モデル論文の序論（Introduction）を読み，CARSモデルで示されている構成要素が含まれているかどうかを確認しましょう。

2）終わったら，近くの人と答えあわせをしてましょう。

3）序論の特徴について，気づいたことをペア（またはグループ）になって話し合いましょう。

モデル論文をそのまま学生に配布するとジャンル分析の難易度は高くなります。一方，モデル論文に含まれる構成要素の箇所に予め下線を引いたり，印を付けたりしておくと構成要素の特定がしやすくなりタスクの難易度が下がります。学生にとっては論文を読むこと自体が難しい場合もあるでしょう。したがって，学生に馴染みのあるトピックでかつ短く，CARSモデルの基本的な構成に沿う分かりやすい論文を選ぶこともポイントです。また，ジャンル分析をさせるときの留意点としては，辞書の使用を許可し，論文の一語一句を理解しようとせずに要点を理解するよう指示することです。学生が問題なくジャンル分析を行うことができる場合には，複数の論文を分析させると学術論文における言語特性を把握しやすくなります。学生の理解度や熟達度に応じて，タスクの難易度を調整しましょう。

以下では，実際の授業で，Anthony (2011, pp. 120-121) の “Investigating the Causes of the *Space Shuttle Challenger* Disaster Using Internet Website Resources” と

いう論文の序論をもとにジャンル分析を行った例を一部抜粋しています（表1，太字は筆者）。

表1
序論のジャンル分析の例

	ムーブ 1: 研究領域の確立（第 1 段落）
背景情報	The National Aeronautics and Space Administration (NASA) **is perhaps best known** for its Space Transportation System (STS), or Space Shuttle program. The Space Shuttle program began in the late 1970s with the aim to design a spacecraft that could ...
	ムーブ 2: ニッチの確立（第 2 段落）
先行研究	**There have been many theories** put forward to plain the *Challenger* disaster. …
欠落の指摘	Many of these theories also **have little to no support**, or are explained using **inappropriate scientific principles**.
先行研究	The official cause of the *Challenger* disaster was given in the Report of the Presidential Commission on the *Space Shuttle Challenger* Accident, …
欠落の指摘	As a result, **few people have read** the report … **confuse the general public** with so-called ‘misinformation or ‘myths’ about the disaster.
	ムーブ 3: 本研究の紹介（第 3 段落）
研究目的	**In this paper, we will examine** four of the main causes… **In particular, we will look at** weather patterns…
研究の価値	By explaining the disaster … **we hope that future scientists and engineers can understand the important role** they have in preventing disasters of this kind.

表1に示したように，Anthony (2011) の序論ではムーブ1，ムーブ2，ムーブ3という流れになっており，ムーブ2では「欠落の指摘」が2回用いられています。それぞれの構成要素では特有の定型表現（表1の太字箇所）が使われているので，そ

の特徴を確認し，実際に論文を書く時に参考にするよう伝えましょう。本章では，紙幅の制約により序論以外のセクションを扱うことはできませんが，他のセクションについても同様にジャンル分析を用いた指導を行うことができます (学術論文の各セクションの構成と定型表現については，中谷, 2016参照)。

（5）「学術論文の初稿を執筆する」段階では，ジャンル分析の結果やモデル論文を参照して執筆するよう指示しましょう。長い論文を一気に書き進めることは難しいため，セクションごとに書かせることがポイントとなります。論文全体の流れや研究の全体像を把握させる目的で序論から書くよう指示したり，学生が「書きたい」または「書ける」セクションから書かせたりする方法があります。学生の状況や様子を見て，無理なく柔軟に指示を出しましょう。

【指導例（初級）】

各学生の研究テーマがまだ決定していない段階であれば，教員が共通の研究テーマを設定し，全員に同じテーマで序論を書かせましょう。専門用語の使い方や主要な先行研究の例を挙げることで，初心者の学生でも抵抗なくタスクに取り組むことができます。また，学生のレベルを考慮して和文の簡易版CARSモデルを使用してもよいでしょう。以下は，指示例です。

1）あなたは「光合成（仮）」に関する研究について論文を書くと仮定します。論文の序論を書くにあたり，次の8つの構成要素（背景，先行研究，ニッチ，研究目的，方法，結果，研究の価値，論文構成）を踏まえて，ワークシートに当てはまる内容を日本語または英語で書いてみましょう。

2）記入したワークシートとモデル論文を参照し英語で序論を書きましょう。

【指導例（中級）】

各学生が個々の研究テーマで研究を行っている場合には，それぞれのテーマで学術論文の序論を書かせましょう。指示例は以下のとおりです。

1）自分の研究テーマで，学術論文の序論を英語で書いてみましょう。その際に，CARSモデルとモデル論文を参照しましょう。

（6）「振り返り，フィードバック，書き直しを行う」段階では，書きあがった初稿をもとに振り返りをさせましょう。具体的には，CARSモデルを参照して，自分の文章にどのような構成要素が含まれているのかを自己点検させる活動があります。また，ピア同士で互いの文章を読みあい，フィードバックを行う活動が

効果的です。これらの活動を行うことで他者や自分が書いた文章における改善点や修正案が見えてきます。それらの点を踏まえて文章の書き直しを促しましょう。

【指導例（初級）】

（4）と（5）の指導段階で使用したCARSモデルを参照させ，初稿にどのような構成要素が含まれているか，または不足しているかを自己点検させましょう。

1）CARSモデルを参照し，自分が書いた序論にどのような構成要素が含まれているかを確認しましょう。

2）文章の改善点とその修正案を自分の文章に書き込みましょう。

3）難しかった点や疑問点をクラス全体で共有しましょう。

4）改善点を踏まえて序論を書き直しましょう。

【指導例（中級）】

初稿を学生同士で互いに読みフィードバックを与える活動を行います。指示例は以下のとおりです。

1）ペア（またはグループ）になって初稿を交換し，互いの文章を読み比べてみましょう。ピアの文章について，良い点と改善点を見つけ，文章本体またはフィードバック用紙に書き込みましょう。

2）自分が書いた文章とピアの文章の類似点や相違点を話し合いましょう。

3）難しかった点や疑問点をクラス全体で共有しましょう。

4）フィードバックをもとに序論を書き直しましょう。

文章指導にピア・フィードバック（peer feedback）を取り入れる目的は，文章を批判的に読んでコメントを与えることで互いの文章をより良くし，文章作成力を向上させることです (ピア・フィードバックの詳細はLiu & Hansen, 2002参照)。ピア・フィードバックを指導するうえで重要なことは以下の4点です。1点目はピア・フィードバックの目的と利点を学生に明確に説明することです。ピア・フィードバックの利点は，「読み手」の視点から文章の内容や書かれ方を評価・判断する視点が養われます。文章の問題点を指摘することに抵抗のある学生もいるので，率直なフィードバックを与えることの重要性を強調しましょう。2点目は文章を読む観点を予め明確に指示することです。文法などの言語使用に関する観点からではなく，内容や構成の観点から文章を読むよう指示しましょう。たとえば，序論であれば，「研究目的が書かれているか」，「ニッチは示されているか」と

いった具体的な構成要素に着目させることによって活動の目的が明確になります。3点目は具体的なコメントを与えるよう指示することです (青木, 2006)。抽象的なコメント（例: 何となく分かりにくい）は理解されにくいため有効ではありません。教師が効果的なコメント例を示しながら，文章の問題点の指摘や修正案の提案を具体的に行うよう指示しましょう。4点目は複数の人からフィードバックをもらえるようにすることです。1つの文章に対して様々な見方や評価が可能であるため，各読み手が気になる箇所や修正案の内容は異なることがあります。複数の人が書いた文章を読み，複数の人からコメントをもらうことによって，学生はより多くの気づきを得られます。学生のフィードバック活動を観察しながら，必要に応じて教員がタスクに介入し円滑に効果的に行えるよう支援しましょう。初稿へのフィードバックは文章作成過程に重点を置いた指導です。特に，学術論文の書き方に慣れていない学生にとっては，論文の作成過程での支援が欠かせません。また，文章を書き直す機会を作ることによって，文章が磨かれるだけでなく，文章技能の上達や習得にもつながります (佐渡島・坂本・大野，2015)。

4.2 教室での文章指導の鍵

ジャンルに基づく文章指導を行う際は，学生の英語熟達度や技能の理解度に応じて，指導で強調する点やタスクの難易度を調節することが大切です。たとえば，初めて学術論文を執筆する学生を対象とする場合と，学術論文の執筆経験が既にあり特定のセクションの書き方で苦戦している学生を対象とした場合では，指導のポイントが異なります。前者の場合には，CARSモデルの中で特に重要となる構成要素のみを扱った和文の簡易版モデルを援用する方法も可能でしょう。CARSモデルは画一的な書き方を提示するためのモデルではありません。学術論文の特徴と慣習を理解するための補助ツールとして柔軟に活用しましょう。

ジャンルに基づく文章指導の利点を総括すると，以下の3点に集約されます。

（i）ジャンル分析によって対象ジャンルへの意識（genre awareness）が高まる
（ii）対象ジャンルの言語特性や慣習への理解が深まり技能の習得が促される
（iii）読み手を意識して文章作成を行えるようになる

これら3点によって，文章作成力の向上のみならず，ライティングを通じた〈コミュニケーション能力〉も養われます。また，ジャンル分析を活用しながら，各セクションにおける構成要素を用いた論の組み立て方や論理展開を学ぶことは〈論理的思考力〉を鍛えることにもつながります。〈論理的思考力〉はライティ

ングに限らず学問をするうえでの基盤となる重要な能力です。ジャンルに基づく文章指導によって身についた知識や技能が，当該ジャンル以外の様々なジャンルの文章を扱うときにも転移され活かされることが期待されます。

おわりに

本章ではジャンルという概念を学術論文の書き方の指導に取り入れる方法を紹介しました。ジャンル分析を用いた指導では，批判的に文章を読む力や文章構造の分析力を鍛えながら文章作成力を高めることができます。学術論文の指導では学生の英語熟達度やアカデミック・ライティングの習熟度を十分に考慮しながら，学術論文を読んだり書いたりするための補助ツールとして柔軟にジャンル分析を活用しましょう。また，文章の作成過程でジャンル分析やピア・フィードバックを取り入れることによって，文章の書き直しを促すことができるだけでなく，学生同士および教員と学生間の双方向のコミュニケーションが生まれやすくなります。これらの活動を通じて，学生は自分の書いた文章における改善点やその修正方法に自分自身で気づけるようになっていき，主体的で深い学びが促進されることが期待されます。文章指導にあたる教員は，学生が書いた文章の出来や文章作成に関する技能の習得だけを注視するのではなく，学生が文章作成に取り組む姿勢にも目を向け，総合的かつ長期的な視点で指導と支援を行っていくことが望まれます。ジャンルに基づく文章指導がこれまで以上に日本における英語教育やライティング教育で実践され，学生の文章作成力の向上とともに〈コミュニケーション能力〉や〈論理的思考力〉が豊かに育くまれていくことを願っています。

引用文献

Anthony, L. (2011). *Writing up research in science and engineering: Foundations.* Waseda University.

青木信之（2006）『英作文推敲活動を促すフィードバックに関する研究—推敲過程認知処理モデルからの有効性の検証』渓水社

Bhatia, V. K. (1993). *Analyzing genre: Language use in professional settings.* New York: Longman.

Bloor, M. (1999). Variation in the methods sections of research articles across disciplines: The case study of fast and slow text. In P. Thompson (Ed.), *Issues in EAP writing research and instruction* (pp. 84–106). Reading: Centre for Applied Language Studies, The University of Reading.

Brett, P. (1994). A genre analysis of the results section of sociology articles. *English for Specific Purposes, 13*, 47–59.

Holmes, R. (1997). Genre analysis, and the social sciences: An investigation of the structure of research article discussion sections in three disciplines. *English for Specific Purposes, 16*, 321–337.

Kawase, T. (2015). Metadiscourse in the introductions of PhD theses and research articles. *Journal of English for Academic Purposes, 20*, 114–124.

Liu, J., & Hansen, J. G. (2002). *Peer response in second language writing classrooms*. Ann Arbor: The University of Michigan Press.

Miller, C. R. (1984). Genre as social action. *Quarterly Journal of Speech, 70*, 151–167.

水本篤・浜谷佐和子・今尾康裕（2016）「ムーブと語連鎖を融合させたアプローチによる応用言語学論文の分析—英語学術論文執筆支援ツール開発に向けて」『英語コーパス研究』, *23*, 21–32.

中谷安男（2016）『大学生のためのアカデミック英文ライティング—検定試験対策から英文論文執筆まで』大修館書店

野口ジュディー・深山晶子・岡本真由美（2007）『理系英語のライティング』アルク

Ono, M. (2012). A genre analysis of Japanese and English introductory chapters of literature Ph.D. theses. In C. Berkenkotter, V. K. Bhatia & M. Gotti (Eds.), *Insights into academic genres* (pp. 191–214). Bern: Peter Lang.

Ono, M. (in press). Move-step structures of literature Ph.D. theses in the Japanese and UK higher education. *Journal of Writing Research, 8*(3).

Pho, P. D. (2013). *Authorial stance in research articles: Examples from applied linguistics and educational technology*. Basingstoke, UK: Palgrave Macmillan.

佐渡島紗織・吉野亜矢子（2008）『これから研究を書くひとのためのガイドブック—ライティングの挑戦15週間』ひつじ書房

佐渡島紗織・坂本麻裕子・大野真澄（2015）（編著）『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド—大学生・大学院生のための自己点検法29』大修館書店

Swales, J. M. (1990). *Genre analysis: English in academic and research settings*. Cambridge: Cambridge University Press.

Swales, J. M. (2004). *Research genres: Explorations and applications*. Cambridge: Cambridge University Press.

Tardy, C. M. (2009). *Building genre knowledge*. West Lafayette, Indiana: Parlor Press.